

ごあいさつ

一般財団法人山下太郎顕彰育英会

代表理事理事長 山下 和 男



山下太郎の生涯は本ホームページ年譜に掲載していますが、国際的実業家として様々な事業に挑戦し多忙を極める中にも、郷里に対する恩は常に忘れなかったことが記されています。その遺志を継承した母文子は、若者の雄飛を願って「財団法人山下太郎顕彰育英会」を設立し、間もなく30年という節目の年を迎えることになります。

この間、バブル景気の崩壊やリーマンショックによる経済危機などにより紆余曲折の時もありましたが、財団の運営に関わっておられる多くの方々のお力添えにより、今なお開設時の財政基盤を健全に維持しております。勿論、その背景には、阿部勝行初代理事長の幅広いご見識と的確なご判断による采配があったからこそに他ならないものであります。手前味噌ではございますが、本財団が果たしている社会的役割とその価値に心から誇りを感じている次第です。

そして、当財団のもう一つの強みは、奨学生OBで組織された「雄飛会」という力強い応援者がいることです。この名前の由来は、山下太郎が晩年に母校北海道大学に於いて、青少年の奮起と飛躍を願って講演した際の『宇宙時代への雄飛』という演題を引用したものと聞いております。心から国を愛し、郷里を愛し、母校を愛し、そして何よりも人を愛した山下太郎の感謝の心が、本財団の奨学生にしっかり受け継がれていることに何か感慨深いものを覚えます。

結びに、心から尊敬する阿部勝行初代理事長が築き上げられた30年という歴史の深さを受け止めながらも、責任と使命を果たしていくと決意を新たにしているところであります。誠に微力ではありますが、難しく厳しいこの時代を切り開く逞しい人材を育てるべく、役職員力を合わせて育英事業の尚一層の充実に一意専心の覚悟でございます。

今後とも皆様方のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(2017年11月)